

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

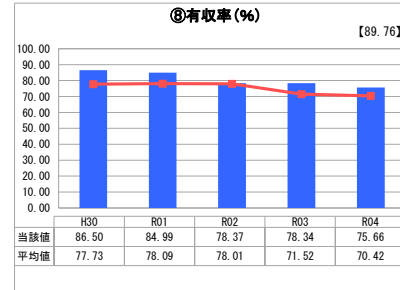
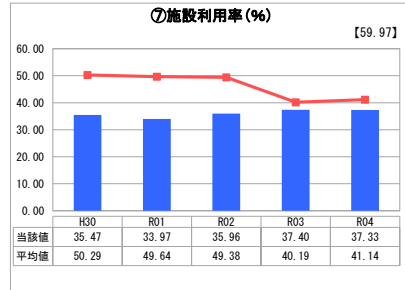
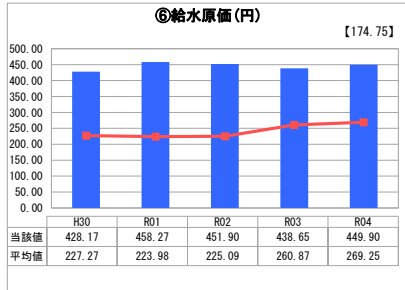
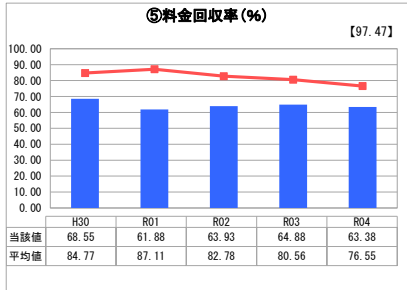
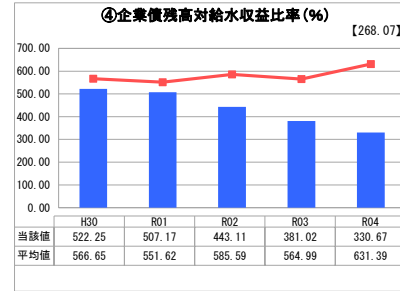
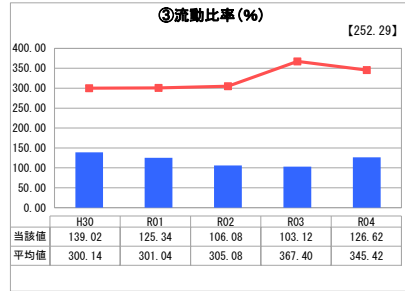
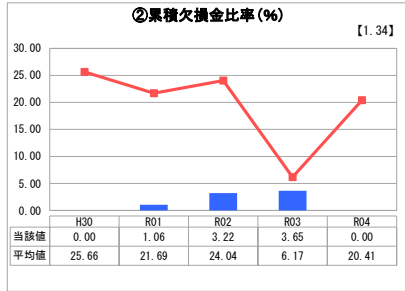
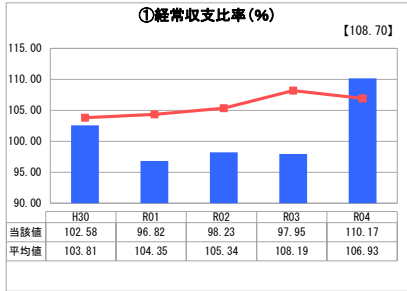
山形県 金山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	84.21	98.89	5,270	

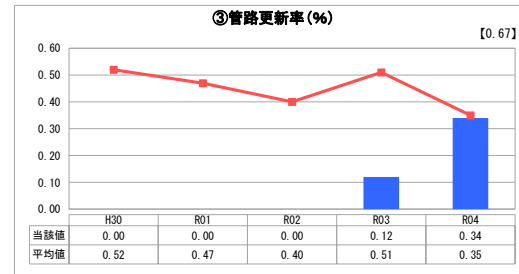
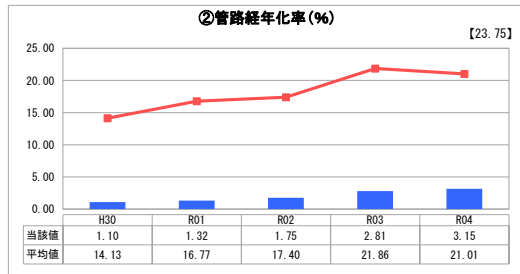
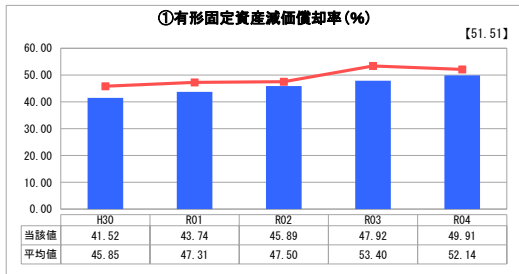
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,981	161.67	30.81
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,901	55.00	89.11

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率について  
前年度と比較すると数値は、12.2%上昇しましたが、一般会計からの繰入金による影響が大きく、安定した経営を行うために、自家用井戸水から水道水への切り替えの促進など料金収入の増加について検討していく必要があります。また、今後、施設更新に伴う事業費の増加など厳しい経営が続くと予測されているため、大規模な施設整備費の財源を確保することが課題となっております。

④企業債残高対給水収益比率について  
2次拡張事業や老朽管の更新事業などの施設整備に要した企業債残高の償還が進み減少傾向にあります。令和4年度末時点での法定耐用年数を経過した老朽化資産の割合は3.15%となっておりますが、老朽化した設備及び管路の更新が控えているため、今後増加していくことが予測されます。

⑧有収率について  
冬期間の冷え込みによる凍結防止対策水量の増加などにより総配水量は増加しましたが、漏水調査や老朽管の更新などにより有収率の向上を図っていきます。

### 2. 老朽化の状況について

②管路経年化率について  
令和4年度末時点での管路経年化率は3.15%となっております。経年化管路は今後増加していく見込みであり、老朽化管路更新や施設の耐震化など整備計画を進めていく必要があります。  
施設整備に向けた考え方は、アセットマネジメントや水需要を考慮した管網計算を実施した後、管路及び施設の最適化を検討し、適正な事業規模での施設整備を図っていく予定です。  
また、平成2年から平成11年までに布設した管路の割合が79%と非常に高くなっているため、アセットマネジメントによる更新時期を検討し、事業の標準化を図っていく必要があります。

### 全体総括

収入対策における当時の課題は、井戸水使用が多く有収水量が類似団体と比較して極端に少ないこととあります。この課題を解決するため、住民への水道水の安全性PRやリフォーム等に併せた水道水への切り替えを1世帯でも多く促進し、1人1日あたり給水量を増加させ、給水人口が減少していく中でも有収水量を維持していくことが重要です。  
また、経営健全化のための施策として、広域連携を推進し、水道事業に係る費用を抑制するための具体的な検討を実施してまいります。  
今後事業を継続していくためには、施設の更新や財源の確保が必要となりますが、既に策定している経営戦略や新水道ビジョンに沿って、適正規模での施設維持ができるよう事業健全化に努めてまいります。